

自閉症・情緒障がい学級 第3学年 道徳科指導案

場 所： ひまわり3組教室

授業者： XXXXXXXXXX

I 主題構成表

主題名 「自分をささえてくれる人」

教材名「ぼく知らなかったよ」

<p>■内容項目 B—(7)「感謝」 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。</p>	<p>■内容項目から見た児童の実態 先生や仲間から手伝ってもらったり助けてもらったりしたときにすぐに「ありがとう」ということができる。誰かに自分の世話をしてもらうことを当たり前のように感じている。自分たちの身の回りが整頓されていたり、壊れていたところが直されていたりするところに気付くことができない。</p> <p>■要因 目先のことだけに囚われて、周りのことまで気にして行動することができない。 日頃の準備や片付けなど、やっってもらえている状況があたりまえになっており、支えられているという気持ちがもてていない。</p>	<p>■教材の分析 「子どもたちのために」「学校のために」と働く用務員の井上さん。主人公は3年生になって自分の知らないところで実は支えられていることが分かり、感謝の思いを伝えようとするところが、ありのままの子どもの様子を表している。その姿から支える人の思いを知り、主人公の気持ちに変化する教材である。この教材を通して主人公のように、自分の知らないところで支えられていたことを自覚し、感謝の気持ちをもつことにつなげたい。また、実際に本校の校務員さんのお話を聞くことで、自分たちも気付かないところで支えられていることに気付き、感謝する心をもって生活していこうという心情を養いたい。</p>
<p>■ねらい お礼を言いたくなった「たっくん」の気持ちを考えるを通して、井上さんの行為や思いに気付き、自分たちの生活も色々な人に支えられていることを知り、感謝の心をもって生活しようとする心情を育てる。</p>		
<p>■研究内容との関わり 研究内容1—(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・魅力ある教材の提示 研究内容1—(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・価値理解を促す主発問の位置付け 研究内容1—(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り、よりよい生き方について考える場の位置付け</p>	<p>■基本発問(◎中心発問) ○その次の日の朝、なぜ「たっくん」は、お礼を言ったのでしょうか。 ◎井上さんのことに気づいた「たっくん」は、どんな気持ちになったでしょう。</p>	

本時の展開

	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>1. 教材に対する興味をもつ</p> <p>○ 挿絵を使って、簡単に登場人物(井上さん・たっくん)を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の仕事をしている人。 ・3年生の男の子。 	<p>研究内容1-(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって本時の内容に入れるよう、登場人物について説明する。 ・「用務」の言葉の意味を抑える。
展開前段	<p>2. 資料「ぼく知らなかったよ」の範読を聞いて話し合う。</p> <p>○ その次の日の朝、なぜ「たっくん」は、お礼を言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に頼まれたから。 ・そうじロッカーを直してくれたから。 <p>◎ 井上さんのことに気づいた「たっくん」は、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼を言いたい。 ・今度手伝いたいという気持ち。 ・ありがとう(感謝している)という気持ち。 ・こんなにぼくたちのことを思ってたくさん仕事をしてくれていてありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活をだれがどのように支えているのか考えながら聞く。 <p>研究内容1-(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「井上さんの何に気付いたのか」を問い、井上さんの行為(色々な仕事をしていること)と思い(みんなのことを思っていること)を明確にする。 ・行為と思いがわかるよう板書する。 ・「どんな風にお礼を言うのか」と問い、役割演技をすることで、感謝の気持ちを深める。
展開後段	<p>3. 価値を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの周りのことを考える。(校務員さん) <p>○ 校務員さんはみんなのために、どんなことをしてくれているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除(草取り, 水やり, 床・窓掃除など) ・修理 ・給食コンテナ <p>○ 校務員さんはどんな思いをもっているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安全や安心に生活してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料(校務員さん)を通して、行為やその行為に対する思いを受け止め、自分事として考えることができるようにする。 ・校務員さんの仕事の様子(行為)を見たり聞いたりして、その思いを考える。 <p>・実際に校務員さんの映像を使って、思いをより深く知る。</p>
終末	<p>4. 振り返りを記入する。</p> <p>○ 校務員さんに手紙を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちを支えてくれている校務員に向けて感謝の思いを手紙(言葉)に書いて伝える。 ・書いた手紙を校務員さんに伝えるように読む。 <p>5. 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で児童の生活を支えてくれている人(交通当番, 町の清掃, 学校ボランティアなど)を紹介する。 	<p>研究内容1-(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習してわかったことや思ったこと, 考えたことをもとに, 手紙を書く。 ・手紙の中に自然と感謝の言葉が湧き出てくる児童を紹介して広める。 ・校務員さんに直接伝えるように意識して話す。 ・写真や映像を使って, 自分たちの身の回りの生活を支えてくれている人たちを知り, 感謝の心を広げる。